《資料編》

【「わらぐつの中の神様」の目標及び評価規準】

	目標	「わらぐつの中の神様」から読み取ったこ 聞き手に分かりやすいスピーチをする。	ことを基に、メモの書き方や生かし方を工夫す	るとともに、適切な言葉遣いに注意しながら
		(国語に対する関心・意欲・態度)	(話すこと・聞くこと)	(言語に関する知識・理解・技能)
L	評価 規準	分かるよう、メモの書き方や生かし方を	自分の話の意図や内容が聞き手に分かるよう にメモの書き方や生かし方を工夫して話した り、その効果を考えながら聞いたりしている。	注意して、話したり聞いたりしている。

【指導計画(全6時間)】

過	主な学習活動	時	学習への支援	評	価 規	準			
程		間	于自 W文版	国語への関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての知識・理解・技能			
	話す力を高めて いくことへの意欲 をもつ。 学習のめあて を知る。		・話すことへの不安をやわらげ、少しずつ話す力を高めていけるよう、教師自ら例示スピーチを行う。 ・学習のめあてがもてるよう、スピーチの課題をいくつかを示す。						
	本文を読んで得た内容を基に、おみつさんが、雪げたを買ってもらおうと両親に話すスピーチを行う。	1	きるよう、範読をする。	つさんの両親になりきってメ モを作成しようとしている。	自分の考えや意図が分かるように、話の中心を明確にして正しい言葉を用いて、おみつさんの両親になりきってメモを作成している。 (十分満足とするキーワード) ・効果的な話の組立てを考えながら ・メモに話の要点を短くまとめて	ように、構成を工夫して、お みつさんの両親になりきって メモを作成している。 (十分満足とするキーワード) ・効果的な構成で			
			れるよう、課題に関係する叙述の部分に着目する 支援する。	(努力を要する状況) への方策 ・話し方、聞き方、話す目的を 確認できるよう、問いかけをす る。	(努力を要する状況)への方策 ・話の内容を見つけられるよう、 学習プリント を見直すように声 かけをする。 ・話の中心を一つ決めるように助 言する。	(努力を要する状況)への方策 ・メモの構成の仕方に気付くよ う、メモ作成時に机間指導を行 い、声かけをする。			
	おみつさんが、 雪げたを買っても らおうと両親に話 すモデルスピーチ 、 を比べ、分		・分かりやすいスピーチを するための観点に気付くこ とができるよう、二つの対 照的なスピーチ(モデルス ピーチ 、)を視聴し、	1 11 1	分かりやすいスピーチをするためのメモの書き方や生かし方をあみつさんの両親になりきって書き出している。	方など、適切な言葉遣いにおみ			
見通し1	かりやすさの原因 を考える。	1	それを比べたり、メモを見 比べたりする活動を行う。	(十分満足とする状況・態度) ・多様な観点からまとめている。	(十分満足とするキーワード) ・メモの書き方と生かし方とを関 連づけながら	(十分満足とするキーワード) ・具体的に記述したり、発表し たりしている。			
			・分かりやすさの原因を明 確にできるよう、「スピー チ名人カード」に整理する。	(努力を要する状況)への方策 ・活動の意欲化を図れるよう、 一つでも気付いたことを多くの 児童に知らせる。	(努力を要する状況)への方策 ・モデルスピーチ のほうが分か りやすいことに気付けるよう、モ デルスピーチ との違いに着眼す るよう助言する。	(努力を要する状況)への方策・モデルスピーチ の分かりやすい理由を考えられるよう、声の大きさなど具体的な観点を助言する。			

見通しっ	おみつさんが、 自分で作ったわら ぐつを買ってもら おうとおすスピーチ の メモを作成する。 メモをもとにス ピーチ を聞き合 う。	1	・主体的に学習に取り組めるよう、各自のメモづくりや練習スピーチを支援する。 ・話し手が自らのスピーチを評価することができるよう、聞き手はスピーチで効果があった観点を、話し手に伝えるよう助言する。・より分かりやすく話すためのメモの改善点を考えられるよう、自分のメモを見直すように声かけをする。	キーワードでメモを書き、聞き手を見ながらおみつさんになりきって話そうとしている。 (十分満足とする状況・態度) ・他の観点を取捨選択して取り入れている。 (努力を要する状況)への方策・心理的な負担を軽減できるよう、3~4人のグループでスピーチする。 ・スピーチの評価を効果的に行えるよう、児童が聞き合う活動において、教師も積極的に認め励ます。	キーワードでメモを作成し、おみつさんになりきって聞き手を見ながら話している。 (十分満足とするキーワード) ・他の観点も積極的に取り入れて (努力を要する状況)への方策 ・メモに書くキーワードの手がかりとなるよう、友達の考えたキーワードを黒板に例示する。 ・メモ作りの効率化が図れるよう、「はじめ」と「終わり」をあらかじめ示してあるメモ用紙を活用する。	ておみつさんになりきって話したり、マサエになりきって聞いたりしている。 (十分満足とするキーワード)・効果的な間の取り方など適切な言葉遣いを考えて (努力を要する状況)への方策・適切な言葉遣いの手がかりとなるよう、友達の考えをいくつか例示として提示する。・自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機器な
2	雪げたが、きれいなまま棚の上にいるわけをマサエに話すスピーチのメモを作成する。 メモを基にスピーチを聞き合う。	1	・結論の内容や位置を工夫することの効果に気付くことができるよう、例示する。 ・主体的に学習に取り組めるよう、メモづくりや練習スピーチを支援する。 ・分かりやすいスピーチの観点が身に付いたかどうかを確かめることができるよう、スピーチを聞き合い、評価し合う活動を支援する。	結論の内容や位置を工夫しながら、雪げたになりきって話そうとしている。 (十分満足とする状況・態度) ・スピーチ で不十分だった観点や新たな観点を、たくさん取り入れている。 (努力を要する状況)への方策・個々の課題が明確になるよう「スピーチ名人カード」を確認するように助言を行う。 ・スピーチの評価を効果的に行えるよう、児童が聞き合う活動において、教師も積極的に認め励ます。	前回のスピーチでの学習事項に加え、結論の内容や位置を工夫し、雪げたになりきってスピーチしている。 (十分満足とするキーワード) ・メモの生かし方の観点を効果的に取り入れて (努力を要する状況)への方策 ・メモの書き方や生かし方の観点を明確に意識できるよう、具体的に助言する。 ・メモに書くキーワードの手がかりとなるよう、友達の考えたキーワードを黒板に例示する。	声の大きさや速さ、間の取り 方など、適切な言葉遣いを考え 雪げたになりきって話したり、 マサエになりきって聞いたりしている。 (十分満足とするキーワード) ・効果的な間の取り方など適切な言葉遣いを考えて (努力を要する状況)への方策 ・適切な言葉遣いの手がかりとなるよう、友達の考えをいくつか例示として提示する。 ・自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機器などを活用するように助言する。
通	スピーチ ~ のメモと「スピーチスピーチスピーチスピーチスピーチスピーチを (また) (また) (また) (また) (また) (また) (また) (また)	2	ことができるよう、スピー チ ~ のメモと「スピー チ名人カード」が一目で見	やすくするために大工さんになりきってメモの書き方や生かし方を工夫している。 (十分満足とする状況・態度) ・メモに修正を加えつつ、工夫の効果を何度も確かめながら、	今までに学習してきた「分かり やすいスピーチをするための観点」 を取り入れ、大工さんになりきっ て分かりやすいスピーチをしてい る。 (十分満足とするキーワード) ・効果的なメモの生かし方(声の 大きさや速さ、間、身振りなど) をして ・目的や相手、場にかなったメモ の書き方で (努力を要する状況)への方策 ・分かりやすいスピーチの観点に 気付くよう、児童の取組の様子を 見取り、個の状況に応じて聞き役 となったり、助言を行ったりする。 ・自分のスピーチを客観的に見直 せるよう、ビデオなどの機器も活 用する。	んになりきって話したり、おみ

【本時案】

第1時(見通し1の準備となる授業。)

(1) ねらい

「わらぐつの中の神様」を通読し、登場人物の気持ちや情景について大要をとらえる。 学習のねらいを知り、なりきりスピーチその のメモを作成する。

- (2) 準備
 - (教師)学習プリント 児童用・掲示用、言葉プリント、メモ作成用紙(2種類)、付せん紙学習目標 を書いた掲示物、スピーチその の課題を書いた掲示物、「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、教材本文を拡大した掲示物 (児童)教科書、ノート、筆記用具
- (3) 展開(1/6)

(於)5年1組の教室

	, ,	(於)3年「組の教皇	
学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
話す力を高めて いくことへの意 欲をもつ。		話すことが最初から上手にできなくても、それを支えてくれる聞き手がいれば、少しずつ自信を持って話すことができることを児童が感じられるよう、教師が例示する。これから行う学習の見通しがもてるよう、「わらぐつの中の神様」の文章を使って、楽しく話す力をつけていくものであることを伝える。	
学習のめあてを 知る。		学習のめあてがもてるよう、なりきりスピーチの課題のいくのかを示す。「今は『わらぐつの中の神様』という文章を読んで、もしみんながおみつさんだら、自分の作ったわらぐつをし、ひいが雪げただったら、マウムなが雪げただったら、マウムでの中の神様」とし、からやっていくのは、て『なりきりスピーチ』をしていく勉強です。」 意欲を高められるよう、学習目標を黒板に掲示する。	
 本文を読んで得		学習目標 「わらぐつの中の神様」でスピーチ名人になろう! 	 【関・意・態】
たのでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大		(なりきりスピーチその のメモ作り) (お父さん、お母さん、雪げたを買ってよ!) のメモおみつさんになって、雪げたを買ってもらおうと、両親に話すスピーチのためのメモ作りをしよう。 その際、「だれが」「だれに」「何を」話すスピーチかを板書で確認する。 活動の見通しが持てるよう、まず、スピーチその のためのメモを作ることを確認する。 課題に合ったメモが作れるよう、課題に関係する叙述の	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
		部分に着目しながら読む活動を支援する。 読めない意味のわからない言葉を確認できるよう、範読をする。 わからない言葉の意味を理解できるよう、「言葉プリント」を活用必要な本文の内容を確認できるよう、学習プリントを用いる。 スピーチに必要な本文の内容を確認できるよう、学習プリントを用いる。 おみつさんの雪げたへの思いを本文から具体的に読み取れるよう、P.10 ~ P.13. L 1 を読むことを伝える。 内容を正しく理解できるよう、学級全体でスピーチのの課題の内容について、重点となるいくつかを確認を	【話・ 3 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と 5 と

- 第2時(スピーチその の振り返りと見通し1にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。 授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)
- (1) ねらい なりきりスピーチその を振り返る。 モデルスピーチを聞き比べたり、スピーチメモを見比べたりして、「スピーチをするためのメモ の書き方や生かし方」を理解する。
- (2) 準備 (教師)ふりかえりカード 、モデルスピーチを録画してあるビデオテープ、TV、ビデオデッキ 学習プリント 、モデルスピーチ ・ のメモ、フラッシュカード、 メモの書き方・生かし方をまとめた掲示物(「名人カード」の拡大紙) (児童)教科書、ノート、筆記用具
- (3) 展開(2/6)

(於)5年1組の教室

	分	**** - ***		
4, 12 + 12 - 18		字督への支援() 十分満足とする状況・態度	及び留意点() 度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
なりきりスピー チ を振り返 ! る。	5	メモを用い、どのような思い を把握できるよう、ふりか <i>え</i>	Nでスピーチをしたかどうか むりカード を用いる。	
モデルスピーチ 、 を比べ、分かりや すさの原因を考え る。		認できるよう、比べるめある 活用する。 二つのモデルスピーチの違い のようにモデルスピーチを行	ーチ 、)を視聴し、それを比べ行う。 - チの違いを視聴しながら確てを入れた学習プリント を	分かりやすく聞 きやすいスピー チの条件を、自

I	モの	いる。	メモを作成している。	【話・聞】 分かりやすいス
	の書き方	終わりで結論を述べる構成 (尾括式の構成)にな っている。	はじめと終わりで一番言い たい ことを述べる構成 (双 括式の構 成)になっている。	カーチをするた めのチモの書き 方や生かし方を 書き出している。
	メ	抑揚や間のない平板な話し方 をしている。	抑揚や間を工夫した話し方 をし ている。	音さ出している。 (学習プリント の記述の分析)
	、モの生	メモから目を離さず読んでい る。	メモをもとに、聞き手をな るべ く見ながら話している。	【言】 話す「音量」や 「速度」、「相手
	かし	身振りはない。	身振りを交えている。	を見ながら」話 すことなどに着
	方	やや小さめの声で話す。	聞き手が聞きやすい声の大きさ や速さで話す。	り こる こに 省 目 して、正しい 言葉を用いてい る。
(1)ビデオを見比 べる。 40				る。 (学習プリント の記述の分析)
(2) 、 どちら が分かりやす	_		できるうよう、挙手で確認す	
いか考える。	Ŧ		かりやすいことに気付けるよ 違いに着眼するように助言す	
			生いに省版するようにのロテ	
(3)分かりやすかった理由を書		分の意見が明確に書ける。 ⁻ る。	よう、学習プリント を活用	
く。	理	- •	里解できるよう、フラッシュ	
	7		がフラッシュカードに書くよ	
	活		一つでも気付いたことを多	
(4)メモを見比べ 分かりやすか			なぜモデルスピーチ の方 という視点で学習プリント	
った理由を書く。	ات	:理由を書く。 [付いたことをたくさん書く		
、。 (5)気付いたメモ			、いった, ガッと, つる。 3よう、「スピーチ名人カード」に整	
の書き方と生かし方を整理	理	する。 ・の際、「名人カード」の拡		
する。	声	の大きさなど具体的な観点	,ながら話すことなどのうち、 点に注意して学習プリント	
1		:書けるように声かけをする	-	
次時の予告を聞 く。		(時の見通しか持てるよう、 『一チその 」とは違うテ-	、「スピーチその 」を「ス -マで行うことを伝える。	

第3時(見通し2にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。

授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

- ねらい
 - なりきりスピーチその を行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自覚し、より分かりやすいスピーチにしていく。
- (2) 準備
 - (教師) 学習目標 を書いた掲示物、スピーチ名人カード(裏:ふりかえりカード ~)、 付せん紙、スピーチ名人カード(掲示用)、モデルスピーチ のメモ(掲示用)、 スピーチその の課題を書いた掲示物、「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、 メモ作成用紙、フラッシュカード、スピーチ台、お面(おみつさん)、 ワッペン(「おみつさん」の文字と絵の2種類)、カセットテープレコーダー9台 (児童)教科書、ノート、筆記用具、色鉛筆

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
メなチい互い ス るの作 (1) で 。 の作	15	(なりきりスピーチその) (お客さん、わらぐつを買ってよ!) もう一度おみつさんに説明したスピーチを振り返ろう。 主体的に学習に取り組めるよう、各自のメモづくりや練習を支援する。 なりきりスピーチを書きなってが持なら、スピーチを書きする。 エーワーチを書きすることを書きする。これであることが、「こととを書きすることを、の際、「スピーチをとすることが、「ことであるに掲示する。 おみのにこれが自分で作ったわら、P.14 ~ P.16. L 1 を読むことを伝えいまる。 おみのにいまする。 おみのにいまする。 を国ののようではいまする。 おみのにはいまする。 なりきりスピーチを書きなった。 そののではいまする。 とことをにはいまする。 ののといまする。 大きにはいまする。 大きにはいまする。 といまがではいまする。 といまがではいまする。 はいまする。 といまがではいまする。 といまがではいまする。 にいまするにはいまする。 にいまないまする。 にいまがではいまする。 にいまがではまする。 にいまがではいまする。 にいまがではまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。 にいまがいまする。	【 前りのりも「「ら次のて(観成え記 話《 スー基ー関《 前りのりも「「ら次のて(観成え記 話《 スー基ー・ス》時入ス分のキ相」の改い活察用り述 ・ス》ピドにド意ピ のれピかと一手にス善る動及紙力の 聞ピ ーの、」態チ び、チやる一見意一を 様メふド析 チ 名あキ相 を、チやる一見意一を 様メふド析 チ 名あキ相 を 取自がすよドなしチ探 子モり そ 人て一手 そ 取自がすよドなしチ探 子モリ の かをりを
 (2)スピーチその の練習を行 う。	10	・心をこめて、しっかりわらを編んだ。	かた
(3) スパーチを行っている (3) スパーの (4) であります (5) であります (5) では、一の (5) では、「は、「は、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、「は、」では、」では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	20	話し手が自らのスピーチ を評価することができるよう、聞き手はスピーチ で効果があった観点を、話し手に伝えるよう助言する。スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙を活用する。効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」を活用する。より分かりやすく話すためのメモの改善点を考えられるよう、聞き手からの評価を基に、自分のメモを見直すように声かけをする。机間指導の際にし、「メモの書き方の工夫、いたのでものでも改らのでも改らのでも改ら、「メモの書き方のの表に、いたのはに、「外でのでもでは提示する。が見ってきた点をメモの書きのよりに提示する。がいて、と比べてに提示する。がいらの方から、「は近のよう、「はいの手ががら、「はいの手ががら、「はいの手ががら、「はいの手がかり、「相手を見ながら、「なって、スピーチで、「中のでする。メモに書く、キーワードがら、「はいの手がかり、「なって、「はいの対率化が図れるよう、関き手はスピーチのように書く、「はいの手がから、「はいの手がから、「はいの手ががら、」と「終わり」をあらかじめ示してあるメモ用紙を活用する。	【

自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機器などを活用するように助言する。 よりよいスピーチとなるよう、いろいろな観点を取り入れているか問いかける。

第4時(見通し2にかかわる授業。太線枠内が検証に関係する部分。 授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)

(1) ねらい

なりきりスピーチその を行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自覚し、より分かりやすいスピーチにしていく。

- (2) 準備
 - (教師) 学習目標 を書いた掲示物、スピーチ名人カード(裏:ふりかえりカード ~) 付せん紙、スピーチ名人カード(掲示用)、モデルスピーチ のメモ(掲示用)、

スピーチその の課題を書いた掲示物、「だれが」「だれに」「何を」の掲示物、 メモ作成用紙、フラッシュカード、スピーチ台、お面・(雪げた)、 ワッペン(「雪げた」の文字と絵の2種類)、カセットテープレコーダー9台 (児童)教科書、ノート、筆記用具、色鉛筆

(3) 展開(4/6)

(於)第二音楽室

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		(** / / / · · · · · · · · · · · · · · ·	
学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	評価項目(評価方法)
メなチい互い ス る。 の作 (1) で 。 の作	15	(なりきりスピーチその) 《マサエちゃん、わたしがここにいるのはね。》 雪げたになって、今、エに話の内できるより返るう。 なりきりスピーチののあまてとして、結論の内容や 位置を工夫することの効果に気付くこと」を担いまする。 主体的に学習に取り組めるよう、メモづくりや練習を支援本文をの際、「スピーチののとができるよりできるとの対果に気力・メモができる。 主体的に学習に取り組めるよう、メモができるよりできる。 おみつさんが自分でする。 おみつさんが自分でする。 を伝える。 テー、教材するとして、結論の内容や できるよう、例示する。 主体的に学習に取り組めるよう、メモができるよりでできる。 おみつさんが自分である。 テー、教材である。 テー、教材である。 全員が内容を正くく理解をフースとでは、 をに、表していて、カードでをは、 の内容を理解がある。 全員が内容をでいて、対しています。 よりよりまする。 よりよりにあるには、 ののでは、ののでは、 では、ののでは、 では、ののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	【
 (2)スピーチその の練習を行 う。	10	年をとって、はかなくなってしまった。 話すことへの抵抗を緩和し、時間の効率化を図れるよう、 スピーチ練習発表及び本番発表は、グループごとに行う。	次のみにいる。様子付いのでは、のでは、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一
		プの構成員は、スピーチその と同じ構成員で行う。	の記述の分析)

I	(3)スピーチその		分かりやすいスピーチの観点が身に付いたかどうかを確かめることがで	【言】
	の本番発表		きるよう、スピーチを聞き合い、評価し合う活動を支援する。	《スピーチその
	を行い、互い		スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙	》
	のスピーチに		を活用する。	スピーチ名人カ
	ついての相互		効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」	
	評価及び、自		を活用する。	基に話すことに
	分のスピーチ		個々の課題が明確になるよう、「スピーチ名人カード」	
	についての自		を確認するように助言を行う。	っている。
	己評価を行う。		スピーチの評価を効果的に行えるよう、児童が聞き合う	
			活動において、教師も積極的に認め励ます。	観察及びメモ作
			机間指導の際に、「メモの書き方の工夫、話し方の工夫」	
		20	の中から一つでも改善点が見つけられていたら、積極的	
			に認め、励ます。	の記述の分析)
			前時のスピーチと比べて進歩してきた点をメモの書き方	
			や話し方から、具体的に提示する。	
			グループでのアドバイス後に、今回のめあて「結論の内	
			容や位置」を次のスピーチに生かせるよう、今回行った	
			スピーチの中身に関連づけて、具体的な助言をする。	
			適切な言葉遣いの手がかりとなるよう、友達の考えたキ	
			ーワードを黒板に例示する。 自分の声の大きさや速さの適切さを直せるよう、録音機	
			日かの声の人ささで迷さの適切さを重せるよう、 録目機 器などを活用するように助言する。	
			品なこを活用するように助言する。 よりよいスピーチとなるよう、スピーチ で不十分だっ	
			た観点のすべてを取り入れているか問いかける。	
			に既示のすってでなり入れているか可いかける。	

- 第 5 時 (スピーチその ~ までを振り返り、自他のスピーチの変化を自覚し、さらに分かりやすいスピーチにしようと意欲を高め、最後のなりきりスピーチ のメモ作りを行う見通し3の前半である。太線枠内が検証に関係する部分。授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)
- (1) ねらい これまでのスピーチその ~ を振り返り、自他のスピーチの変化に気付き、さらに分かりやすいスピーチにしようと意欲を高めている。 なりきりスピーチその ~ の振り返りで気付いた自分のスピーチの進歩を基に、スピーチ学習の集大成である、なりきりスピーチ のめあてを決め、メモを作成する。
- (2) 準備 (教師)付せん紙、これまでに作成したメモのコピーをを張った模造紙、 スピーチ名人カード(児童用・掲示用)、 学習目標 を書いた掲示物、 メモ作成用紙(児童用・掲示用)、なりきりスピーチその のテーマを書いた掲示物、 児童の考えを書くための画用紙短冊(掲示用)

(児童)教科書、筆記用具、赤鉛筆、

(3) 展開(5/6) (於)体育館

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 評価項目(評価方法) 十分満足とする状況・態度の児童への支援()
今までしてきた スピーチその ~ を振り返 り、自分や友達 のスピーチの進 歩を見つける。		互いの表現力の高まりを自覚し、自己肯定感を持つことができるよう、スピーチ ~ のメモと「スピーチ名人カード」が一目で見られるよう、一枚の紙に張る。
(1)自分のスピー チの進歩を見 つける。		最初に、自分のスピーチの進歩を明らかにできるよう、 メモの書き方や生かし方の変化をメモや「スピーチ名人 カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場所 に張る。
(2)同じグループ の友達の進歩 を互いに見つ け合う。		次に、友達の進歩に気付けるよう、同じグループの友達のメモの書き方や生かし方の変化をメモや「スピーチ名 人カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場 所に張る。

(3)他のグループ より多くのスピーチの変化や進歩が自覚できるよう、他 の友達の進歩 グループの友達のスピーチの進歩をメモや「スピーチ名 人カード」をよく見比べて付せん紙に記入し、所定の場 を互いに見つ 25 け合う。 所に張る。 効果的な振り返りとなるよう、メモの変化から見つけた どんな小さな進歩でも書くように呼びかける。 (4)自分で気付い 最後のスピーチへのめあてを自覚できるよう、スピーチ たり、友達か メモの書き方と生かし方、それぞれ一つずつ、重点とす ら教えてもら るめあてを決め、「スピーチ名人カード」のめあて番号 ったりした自 に赤鉛筆で丸をつける。 分のスピーチ の進歩を基に 成長をメモや「スピーチ名人カード」の変化から具体的 に提示して、これまでの成果や努力をほめる。 最後のスピー 今までのスピーチで取り入れてきた表現の工夫をこれま チへのめあて でのメモをもとに具体的に思い出し、「スピーチ名人カ を決める。 ード」に記されている表現の工夫のうち、まだ一度もス ピーチに生かすことができていないものをめあてとする ように呼びかける。 これまでのスピーチを振り返り、相手を見ること、声の 大きさや速さ、間をあけること、身ぶりや手ぶりを入れ ることの中から目標を絞るように声かけをする。 最後のスピーチのめあては、これまでに身に付けたメモ の書き方や生かし方を総合的に取り入れたものとするこ とを伝える。 【関・意・態】 メモを作成して (なりきりスピーチその 《スピーチその なりきりスピー チその を行 (おみつさん、 のメモ》 い、グループで おれのおよめさんになってくんないかな。) これまでの学び 互いに聞き合 ▶大工さんになって、およめさんに来てほしいと、おみつ▶ を総合的に生か し、テーマに関連する叙述に即 ▶さんに話したスピーチを振り返ろう。 い、振り返る。 してメモを作成 しようとしてい (1) スピーチその なりきりスピーチその へのめあてが持てるよう、「ス ピーチ名人カード」の工夫を総合的に取り入れてスピー のメモを作 る。 チをすることをめあてとすることを確認する。 (活動の様子の る。 その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する 観察及びメモ作 成用紙の記述の 大工さんがおみつさんにおよめさんに来てほしい思いを 本文から具体的に読み取れるよう、P.20. L 6~ P.23. L 9 15 分析) を読むことを伝える。 テーマに合ったスピーチその のメモ作りができるよう 【言】 《スピーチその に、教材本文の叙述に着目し、内容を理解する時間を取 メモ》 るようにする。 これまでの学び メモができたら、もう一つ別のメモを作成してもよいこ とを声かけする。 を総合的に生か し、テーマに関 連する叙述に即 してメモを作成 している。 (児童が使用し たメモ作成用紙 記述の分析)

- 第 6 時 (スピーチ学習の集大成であるなりきりスピーチその を行う見通し3 にかかわる授業の後半である。 太線枠内が検証に関係する部分。授業のビデオ録画を基にした考察等の方法を使っても検証を行う。)
 - (1) ねらい なりきりスピーチその を行い、それを自他で振り返ることにより、自分のスピーチの向上を自 覚するとともに、スピーチへの自信を深め、学習全体のまとめをする。
- (2) 準備 (教師)付せん紙、スピーチ名人カード(児童用・掲示用)、 学習目標 を書いた掲示物、

メモ作成用紙(児童用・掲示用)、なりきりスピーチその のテーマを書いた掲示物、フラッシュカード(掲示用)、スピーチ台、机、お面(大工)、ワッペン(「大工」の文字と絵の2種類)、カセットテープレコーダー9台(児童)教科書、筆記用具、赤鉛筆、

(3) 展開(6/6)

(於)第二音楽室

学習活動	分	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の児童への支援()	平価項目(評価方法)
メなチいう はい	15	(なりきりスピーチその) (おみつさん、 おれのおよめさんになってくんないかな。) 大工さんになって、およめさんに来てほしいと、おみつさんに話したスピーチを振り返ろう。 前時に考えたなりきリスピーチその へのめあをを合いるとり入れてスピーチをすることをめあてとすることを確認する。 その際、「スピーチ名人カード」を黒板に掲示する。 大工さんがおみつさんにおよめさんに来てほしい思いまいがおみつさんにおよめさんに来でしていまれています。 大工さんがおみつさんにおよめに来てほしい思いまない。 大田で見つけられるよう、前時に本文 P.20. L 6 ~ P.23. L 9の範囲から探したことを確認する。 テーマに合ったスピーチその のメモ作りができるよ取 できるな取述に着目し、内容を理解する時間を	【《 こをしーりなしのて(観成え記 話《 スー基聞かス善い(観成えい、このれ総、チやる、改い活察用り述 ・ス》ピドにいをピ点る活察用り意ピメま合自がすよス善る動及紙力の 聞ピ ーの話た振ーに、動及紙力・一モで的分よいうピ点、のび、一分 】ー チめしりりチ気 のび、一態チ》のにのりもに一を 様メふド析 チ 名あたで返へ付 様メふドーモ 学かス分の注チ探 子モり そ 人てりきりのい 子モりその び ピかと意へし の作かの の 力を、た、改て の作かの
(2)スピーチその の練習を行 う。	10	援を行う。	の記述の分析) (言】 (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま)
(3)スピーチ番、 での表 での での でん		スピーチ後、相互評価を効果的に行えるよう、付せん紙を活用する。 効果的な自己評価になるよう、「スピーチ名人カード」を活用する。 机間指導の際に、「メモの書き方の工夫、話し方の工夫」の中から、はなきに、であれたいにのでも改善点が見つけられたらいまえている。はいるとともに、での学習を踏まえての子なりの上達がいてで進歩してきた点をメモの書きのスピーチと比べて進歩してきた点をメモの事がいた、具体的に提示する。分かりやすいスピーチの観点に応じて聞き役となったり、個の状況に応じて聞き役となったり、個の状況に応じて聞き役となったり、	の様子の 観察及、ふりかえりかえりからの記述の分析)

		助言を行ったりする。
		グループでのアドバイス後に、自分なりに重点的に取り
		組むめあてのうち、一つでもスピーチに生かせることが
		できていたら、具体的に賞賛する。
	20	自分のスピーチを客観的に見直せるよう、ビデオなどの
		機器も活用するように助言する。
		自分のメモの工夫に役立てるよう、友達の工夫例を黒板
		に提示する。
		適切な言葉遣いに注意して話せるよう、個の状況に応じ
		て、「どこで、どのように間を取るのか」等、具体的に
		助言する。
		「スピーチ名人カード」を基に、これまでのスピーチで
		上達してきた点を具体的に指摘し、賞賛する。
		最後のスピーチが効果的に行えるよう、これまでに身に
		付けたメモの書き方や生かし方を総合的に取り入れるよ
		うに声かけをする。
今回のスピーチ		・
学習を振り返 り、スピーチへ		話すことへの自信を深めるよう、児童の上達ぶりを賞賛
		するとともに、国語として、考えを整理したり、相手に
の自信を深め		伝えたりする力が身に付いてきていることを話す。
る。		

『わらぐつの中の神様』

言葉プリント

 \land

月

日) 五年

組

釆田

名前

言葉の意味を調べよう!

今日、初めて意味を知ったものには、 をつけましょう。意味を知っていたものには、 をつけましょう。

よしあし	きょうしゅく	まじまじと	むしる	あけすけ	が ん ぎ	なだめ役	言葉をにごす	ふっさり	つ ま 皮が	気 ^き 立 ^だ て	正 真 正 め い	迷り	しんしんと	語句
22 • 3	21 • 21	18 • 5	18 • 1	17 • 3	16 • 6	13 • 12	13 • 8	10 • 10	10 • 10	9 • 9	8 • 6	8 • 5	4 • 7	P · L
よいこととわるいこと。よいわるい。善悪	ありがたく思うこと。 おそれいること。	じっと見つめるようす。	いぐさ、がま、わら、竹などで編んだ敷き物。	物事をつつみかくさないこと。	路にするために使われている木の屋根のこと。雪の深い地方で、のきのひさしを長く出し、その下を通	きげんをとる係り	はっきりと言わない。	ふさふさしている様子を表す言葉。	雨やどろをよけるために、げたのつま先に付けるおおい。	気持ち。性質。	ほんとうのこと。うそいつわりのないこと。 ほんもの。	りくつに合わないあやまった言い伝えを信じること。	(深々と)雪がしずかにふりつづくようす。	意 味 (「わらぐつの中の神様」での使われ方)

学習プリント

「わらぐつの中の神様」のおおまかな中身をつかもう! 日) 五年 組 番・名前

・おみつさんが自分の () を見るマ 知るマサエ サエ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9 (マ サ エ の	J	^
・() がほしくなったおみつ ・自分で作った() が、おみつさ ・わらぐつを買ってくれた、 んにプロポーズ	・村の人たち ・村の人たち ・ 村の人たち ・ おみつの() 屋の おみさん	「町の(」屋さん)	() の話		
マサエ () がかわかず、・() がかわかず、	・マサエの ・マサエの ・マサエの ・マサエの ・ つ		マサエの(現 在	78
おもなできごと	登場人物	面	場	作品の中の時	作

子習プリント

ビデオから気づいたこと	かりやすいスピーチは、どこがちがうのかな? 見つけよう。	(月日)五年組番・名前

メモから気づいたこと

《スピーチ名人カード》 *これができればスピーチ名人だ!!*

5年 組 番・名前

番号	書 き 方 の 工 夫	新しく気づいたこと
1	大切な所だけ(キーワード)で書く	
2	はじめとおわりに一番言いたいこと	
	話 し 方 の 工 夫	新しく気づいたこと
3	相手を見る	
4	声の速さ・大きさ	
5	あいだ(間)	
6	動 作(身ぶり)・手 ぶ り	

《おみつさんになって、雪げたを買ってもらおうと、【テー マ】 お父さん、お母さん、雪げたを買ってよ!

両親に話すスピー チ》

日)五年

組

番・名前

なりきりスピー チその

のメモ

おわり	なか	は	じめ)

なりきりスピー チその のメモ (スピーチ 同形式)

1 36557、3457、3ずに辿ったり 月 日)五年 組 番・名前

《おみつさんになって、雪げたを買ってもらおうと、お父さん、お母さん、雪げたを買ってよ! 両親に話すスピー チ》

ふりかえりカード

 \land

月 日) 五年 組 番• 名前

どちらかに(をつけて。わけを書いてください。なりきりスピーチ(をして、「話してよかった」と思えましたか。

話してよかったと思えた 話してよかったと思えなかった

【わけ】

L

なりきりスピーチ をして思ったことを書こう!

「わけ」 どちらかに をつけて。なりきりスピーチそのへ 月 日ン なりきりスピーチその なりきりスピーチその なりきりスピー チその ふりかえりカード 話してよかったと思えた をして思ったことを書こう! わけを書いてください。をして、「話してよかった」と思えましたか。 をして思ったことを書こう! をして思ったことを書こう! 組 番 話してよかったと思えなかった 名前